HIV 感染症/エイズについて

HIV(Human Immunodeficiency virus)感染症は血液・体液などを介して感染する性感染症です。現在、日本では 1500 人/年前後で新規感染者が確認されており、90%以上は男性同性間性的接触と考えられています。抗 HIV 薬が多数開発されており、世界的に早期発見・早期治療で良好な治療成績が報告されています。

症状

①初感染期：HIV 罹患後 2～6 週間に初感染症状として 50～90%で発熱、リンパ節腫脹、咽頭炎、皮疹、筋肉痛・関節痛、頭痛、下痢、嘔気・嘔吐が認められます。

②無症候期：初感染期の症状が消失し、エイズ期に至るまで数年～十数年の期間で、個人差が大きいです。

③エイズ期：免疫力の低下のため、真菌症、原虫症、細菌感染症、ウイルス感染症、腫瘍など様々な症状を認めます。エイズ期になると死亡率は 10～20%のため、早期検査と早期治療が重要です。

検査

スクリーニング検査として抗 HIV 抗体検査、HIV 抗原検査を行います。ただし、偽陽性が 0.3～1%程度あるため、確定検査はウエスタンブロット法および RT-PCR 法で行います。

治療

HIV専門医で治療を行います。現在、日本では24種類の抗HIV薬が使用可能であり、3剤以上の薬剤を用いて治療します。ほぼ100%に近い成功が期待できますが、内服の遵守が必須です。また、現在の治療はHIVを抑制することは可能ですが、根絶はできないため長期服用が必要です。